

研究実施計画書

コロナ禍に開催した肺がん患者会の活動報告

1. 背景及び研究実施の意義・必要性

当院では、肺がん患者とその家族が、同じ経験を持つ仲間と出会い、自身の経験を語る事ができる肺がん患者会「あすかの会」を2009年から開催している。2009年8月から2019年11月まで計15回開催し、平均参加人数は7.3人で、延べ参加者人数は110人であった。しかし、2020年度は新型コロナウイルス感染症の拡大のため、開催を断念した。2021年度は、新型コロナ感染症の状況を鑑み、感染対策を講じながら、7月30日に「あすかの会」を開催した。新型コロナウイルス感染症の拡大により、さらに不安が募るからこそ、仲間とのつながりを求め、語り合う場の提供が必要である考え、開催に至った。コロナ禍における肺がん患者会に参加する患者・家族の思いを明らかにし、今後の患者会継続の示唆を得る。

2. 研究の目的

コロナ禍に肺がん患者会に参加した患者とその家族の思いを明らかにすることとする。

3. 研究デザイン

アンケート調査研究

4. 研究方法

1) 研究対象

2021年7月30日肺がん患者会に参加した患者8名とその家族3名

2) 研究の評価項目

- 1) 新型コロナウイルス感染症に対する不安な思いについて
- 2) 肺がん患者会参加するにあたり不安な思いについて
- 3) 腫瘍内科医師によるミニレクチャーで関心があった内容について
- 4) 新型コロナウイルス感染症について感じたこと(自由記載)
- 5) 肺がん患者会で行った感染対策について
- 6) 意見交換会での感想
- 7) 今後、参加希望の有無
- 8) 肺がん患者会への改善点や要望

3) データ収集方法

後日、定期受診日にアンケート調査を実施する。対象者に対して、参加の自由意思、匿名性、不参加による不利益が生じないこと、アンケート結果をまとめ、院内外学会発表を予定していることを紙面に明記し、アンケートへの回答をもって研究の同意を得たとみなす。問い合わせ先については研究

担当者であるがん相談支援センターの連絡先を明記する。

4. 研究における倫理的配慮

- ・ 患者会参加者のプライバシー保護に努め、個人が特定されないように配慮する。
- ・ 特定の個人を識別することのできないようにデータ収集を行うため、個人情報特定される等の危険性は少ないと考えられる。
- ・ 本研究は、患者への侵襲や人体から取得された試料の利用がなく、既存の診療情報等の情報を用いた研究となる。
- ・ 富山労災病院ホームページ上に、オプトアウトとして研究に関する情報を公開し、拒否の機会を保障する。

5. 研究期間

2021年7月から2022年7月まで

6. 研究実施者および連絡先

研究代表者：富山労災病院 腫瘍内科 菓子井達彦

分担研究者（代表）：富山労災病院 看護部 原 直子